

## シャーデンフロイデと心拍反応との関連性

1220444 刈谷百加

指導教員 三船恒裕

### 研究背景

シャーデンフロイデとは人の不幸を見聞きした際に感じる喜びの感情である。これまでの研究では fMRI を用いてシャーデンフロイデの神経認知メカニズムを解明しようとするものはあったが、心拍反応との関連性に焦点を当てたものはなかった。生理的な反応は情動分析において重要な要素であり、複数の生理指標との関連性を検討する必要がある。

### 研究目的

シャーデンフロイデと生理指標の一つである心拍反応との関連性を調査することが本研究の目的である。

### 調査・分析方法

Takahashi et al. (2009) の研究を参考に実験デザインを構築した。主人公と平均条件・有利条件となる二人のターゲット人物が登場するシナリオを作成し、主人公を被験者自身として有利条件の人物に羨望を抱くよう能力や社会的地位の優劣を詳しく描いた。その後両方の人物に不幸が起こるシナリオを提示してシャーデンフロイデを喚起させ、その間の心拍反応の変化を分析することでシャーデンフロイデと心拍反応との関連性を調査した。

### 分析結果

先行研究と同様に被験者に羨望とシャーデンフロイデが喚起されているか検証するため主観的指標で測定した上記の二つの感情を分析した。その結果、どちらも平均条件より有利条件で強く喚起されており被験者に想定通り感情を喚起できていることが示された。しかし、シャーデンフロイデ喚起時の心拍反応の変化は平均条件と有利条件との間で有意な差は見られなかった。また、主観的指標で測定したシャーデンフロイデとシャーデンフロイデ喚起時の心拍数との間にも有意な相関は見られなかった。

### 考察・結論

本研究では、シャーデンフロイデと心拍反応との関連性について示されなかった。この結果から二つの可能性が考えられる。一つ目は、シャーデンフロイデの喚起が心拍反応へ及ぼす影響がない、もしくは限りなく小さく測定不可能だという可能性である。二つ目は、本研究で被験者に喚起させたシャーデンフロイデが弱く生理指標でその変化を捉えられなかった可能性である。そのため、今後はより強くシャーデンフロイデを喚起させるシナリオを作成した場合でも同様の結果になるのか検証する必要がある。